# 令和３年度国立大学法人熊本大学病院アドバイザリー会議　報告書

国立大学法人熊本大学病院アドバイザリー会議規則第２条に基づき、点検を行いましたので、以下のとおり報告します。

１．会議日時・出席者等
・日　時　令和４年１月２０日（木）１２：００～１３：１５
・場　所　本部棟３階　特別会議室　（一部は WEB にて出席）
・出席者　（会場）小川学長、宇佐川委員、甲斐委員、馬場病院長
　　（WEB）　田嶋委員、村田委員、福島委員、水田委員、福田委員
・陪席者　（会場）増村副病院長（病院事務部長）、西川総務課長、山下経営戦略課長
　　（WEB）　有松理事、園田監事、立石監事、向山副病院長、松岡副病院長、
　　芦江経理課長、中島医事課長、山下医療サービス課長

２．点検の方法
各委員には、事前にスライド資料、病院概要及びアニュアルレポートを送付し、当日は馬場病院長より、新型コロナウイルス感染症への取組状況、病院経営の課題と戦略、地域医療連携体制の強化、医師の働き方改革に向けた取組状況、教育・研究機能強化への取組状況をテーマとして、スライド資料により説明及び報告があり、その後意見交換を行った。

３．意見交換の内容
（◇は委員からの質問・意見、◆は馬場病院長の回答・説明）

<u>新型コロナウイルス感染症に係る取り組みについて</u>

◇　新型コロナウイルス感染症が令和 2 年 2 月 21 日に県内で初めて確認されて以来、まもなく 2 年が過ぎようとしているが、その間、熊本大学病院には県内の医療機関のリーダーとして牽引するとともに、特に馬場病院長には県の専門家会議の座長として積極的に対応していただいている。また、病床がひっ迫する中で、コロナ患者の受け入れにも積極的に取り組んでいただき、ワクチン接種への医師や看護師派遣と多岐に渡りご尽力いただいていることに対して感謝申し上げる。熊本大学病院の役割は非常に大きいものであるため、引き続き対応をお願いしたい。

◇　新型コロナウイルス感染症の第 4 波後半から馬場病院長、熊本大学病院に陣頭指揮を執っていただき、病床確保のため受け入れ医療機関の基幹病院を訪問する等、尽力いただき感謝申し上げる。今後も熊本大学病院には熊本の唯一の大学病院として、高度先端医療、教育・研究を強化していただかないといけないが、新型コロナウイルス感染症についても積極的な対応をお願いしたい。

◇　COVID-19 によって、かなり緊密な医療連携が必要だということがベースとなってきていると思うが、医師や看護師の意識、取り組み姿勢にどのような変化が起きたか。

◆　COVID-19 を通じて、地域の様々な医療機関に職員を派遣したり、全国規模で看護師を派遣したこと等により、職員の意識は大きく変わってきたと感じている。行政と

の連携が必要であるということ、大学病院には自分の病院を守っていくだけではなく、日本中、あるいは世界のどこにいる患者さんに対しても同じような思いで手を差し伸べる必要があるということに対する意識改革ができたのではないかと感じている。

◇　大学病院、特に馬場病院長にはコロナ対応において医師・看護師の派遣などをはじめとして、常に様々な面でご支援いただいていることに深く感謝申し上げる。

◇　新型コロナウイルス感染症対応について、熊本大学病院という立場を有効に活用し、意義ある活動をされていて評価できる取り組みであり、敬意を表する。

**地域医療連携体制強化の取り組みについて**

◇　地域医療の確保について、過疎地域を含めた地域の医療機関は、熊本大学病院の医師派遣によって維持されている状況であるため、県として、地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座、地域医療・総合診療実践学寄附講座及び新たな感染症対策の寄附講座の設置という形で全面的に支援していきたいと考えている。

**医師の働き方改革に係る取り組みについて**

◇　医師養成機関として、多くの優秀な医師を養成していただき、熊本の地域医療を守るという大きな働きに繋がっており、ご尽力いただいているところであるが、今後働き方改革がどういう形で展開されるかが大変危惧され、取り扱い方によっては、地域医療が混乱する可能性もあるため、馬場病院長には引き続きご指導願いたい。

◇　医師の働き方改革について、技師の業務拡大は大変良いことだと思う。業務の効率化を図るにあたって、患者さんの受付から退院までの治療方法や診察内容を関係する職員に情報共有ができているか。自分の仕事はこのフローの中のこの部分だということが明確に分かっていると連携のレベルが変わってくると思う。さらに、その連携のレベルが IT に置き換えることができるものであるのであれば、どんどんデジタルベースに移行することが必要であると思う。

◆　働き方改革に向けてのタスクシフトについては、さらに業務拡大をして、チーム医療の中にさまざまな形で参画できるという意識を根づかせるための取り組みを進めているところである。職員が、患者さんの診断、治療の中でどういう立場で、どういう役割を担っているかということを常に意識できる、自ら改善できる、改善するためにどうしたら良いかを考えることができるような指導、教育体制を構築したいと考えている。IT 化について、今後は更に IT、あるいはロボットの導入等を進めていく必要性は感じており、早速取り組みたいと考えている。

◇　医師の働き方改革には体制作りや、AI 等のシステム作りとともに患者さんの理解が重要になると思う。患者さんに理解してもらうための取り組みとして、市民向け講座の中にコーナーを作り、毎回会場の皆さんに呼びかけたり、動画を作成して待合室等で放送したり、人は伝え方で受け止め方が変わってくるので、「なぜ、働き方改革が医師に必要なのか」ということや、患者はどういう手段を取ったら良いのか、どういうことが利用できるのかという情報もしっかりと伝えることで安心感にも繋がり、理解がよりいっそう進むのではないかと思う。また、女性医師への配慮

や働きやすい体制整備にも引き続き取り組んでいただきたい。

◇　人口減少が着実に進んでいる中で、医療従事者の確保が懸念されると思うが、市民病院においても、看護師、看護助手、薬剤師、医師事務補助者の確保が難しくなってきていると認識している。働き方改革においては、タスクシフト・シェアがさらに必要になってくると思うが、医療従事者の確保が難しくなってくると、働き方改革を進める上でも影響が出てくるのではないかと考えている。大学病院の医療従事者確保の現状と長期的な取り組みを実施しているかについてご教示願いたい。

◆　医師の働き方改革の中では医師事務補助者を増やすことが改革に役立つと言われている。現在、本院では 25 対 1 の水準で確保しているが、今後は可能であれば 15 対 1 の水準で確保したいと考えている。しかし、募集をしてもすぐに応募があるわけではないため、今後対策を検討する必要があると考えている。他の職種に関して、本院においても人材確保に苦慮しているので、情報共有しながら取り組んでいきたい。

<u>その他の取り組みについて</u>

◇　屋外環境整備が完了し、病院敷地内が綺麗になったことをもっと広報するべきだと思う。例えば、敷地内で医療従事者が演者のコンサートを開催し、熊本大学病院の存在を地域にアピールする等の方法があるのではないか。

◇　現在は、新型コロナウイルス感染症対応に多くの時間を割かざるを得ないと思うが、患者としては、医療の中身が気になるので、熊本大学病院として提供する医療の強みを県内、国内外に発信して欲しい。

令和４年３月３１日
国立大学法人熊本大学病院アドバイザリー会議
議 長　宇佐川　毅